

編集後記

サイバーフィジカルシステムやIoTなど現代の複雑なシステムにおいて、特に計測技術、計測工学はますます重要となっている。そこで、これまでの計測工学を振り返り、将来の発展につながるように「計測工学 温故知新」と題した特集号を企画した。「計測と制御」の特集は、会誌出版委員会の各部門の委員からなる小委員会が分担し、本特集は計測小委員会が担当したものである。当初はとある特定のテーマについての温故知新の企画が提案されており、小委員会ではこれを発展させ計測分野全体の温故知新についてまとめることとした。新たに著者を選定し原稿を執筆していただくことも考えられたが、さまざまな理由から過去の「計測と制御」の掲載済み原稿について著者自身に振り返りのコメントを書いていただくこととした。そうした経緯から、本特集は、安藤先生に執筆いただいた巻頭

言に続く記事は「計測と制御」の再掲記事と著者コメントから構成されており今までの特集とはかなり異なったものとなった。

「計測と制御」は1962年から発刊されており、掲載済みの膨大な記事の中から10篇程度の記事を選定することはそもそも難しかった。また、計測を「広げること」「深めること」「応えること」のバランスを考慮して選定をしたつもりであるが、紙面の関係で載せることのできなかった記事も多数ある。さらに、著者が物故者で残念ながらコメントを得られなかった記事もある。そういう意味では本特集は未完成ではあるのだが、本特集が計測を一層発展させるためのこれまでとこれからを読者の皆様が考えるきっかけとしていただければ幸いである。

(川喜田 佑介 記)

◇第63巻第9号(2024年9月号) 予定目次◇

一般記事

リレー記事 「FACE the future」《第68回》人とロボットの融合を目指す手術ロボット技術 菅野貴皓(リバーフィールド)

特集 ロボット・ICTを活用した高齢者のコミュニケーション・ケア支援

- 総論 ロボット・ICTを活用した高齢者のコミュニケーション・ケア支援 板井志郎(広工大)
- 解説 アザラシ型ロボット「パロ」によるバイオフィードバック・セラピー：エビデンスに基づく非薬物療法の世界の医療福祉制度への組み込み 柴田崇徳(産総研)
- 解説 言語リハビリにおけるIT・コミュニケーションロボットの活用 下田 篤(千葉工大)
- 解説 シナリオ型ロボットレクリエーション 中山景央(高千穂大), 成合智子(高千穂大)
- 解説 健康寿命を延伸する共生型ロボットAI 三枝 亮(神奈川工大)
- 解説 ICTを活用した在宅高齢者の見守り・コミュニケーション支援 吉満孝二(鹿児島大)

- 解説 没入感メディアを活用した高齢者の疑似外出体験システム 安部伸治(広工大), 河田大雅(広工大)
- 解説 日本における介護ロボティクス - 新しい発想で人口推移がもたらす問題を解決する Martin RATHMANN (Univ. of Siegen)
- 座談会 ロボットやICTを活用したこれからの高齢者介護を考える 板井志郎(広工大)ほか
- 事例紹介 介護施設でのロボットを活用したレクリエーションの事例紹介 米岡利彦(美鈴会)
- 事例紹介 The Use of Robots for Elderly Care in Switzerland Sabina MISOCH (Univ. of Eastern Switzerland)

一般記事

- 部門だより 第24回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会(SI2023)報告 大石 潔(長岡技術科学大), 宮崎敏昌(長岡技術科学大)
- 製品紹介 小型デジタル指示調節計:形C1A,形C1Mアナログ性能の向上と機能拡充 アズビル株式会社

(第63巻第8号)

特集号編集WG: 相沢宏明(東洋大学), 伊藤直史(群馬大学), 藤原正浩(南山大学), 飴谷充隆(産業技術総合研究所), 西野敦洋(産業技術総合研究所), 川喜田佑介(神奈川工科大学:幹事)

2024年度 会誌出版委員会(五十音順)

委員長: 山下 智輝

副委員長: 小木曾公尚

飴谷 充隆

伊藤 博通

伊藤 優司

井上 淳

伊吹 竜也

大谷 雅之

大塚 章正

岡島正太郎

岡本 有司

尾山 匡浩

川喜田佑介

川瀬 利弘

久下本秀和

関 宏理

田中 基康

豊田 充

西川 鋭

西野 敦洋

長谷川圭介

堀内 哲也

堀川徳二郎

宮廻 裕樹

保田 俊行

山田 広明

吉野 公三